

北相木村立北相木小学校 情報機器共同調達推進計画

令和7年1月

目次

1. 端末整備・更新計画
2. ネットワーク整備計画
3. 校務 DX 計画
4. 1 人 1 台端末利活用計画

1. 端末整備・更新計画

	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度	令和 10 年度
①児童数(人)	50	50	52	54	56
②整備上限台数(台)	57	57	2	5	7
③整備台数(台)	0	50	0	0	0
④③中基金事業分(台)	0	50	0	0	0
⑤累積更新率(%)	0	100	96	93	89
⑥予備機(台)	0	7	0	0	0
⑦⑥中基金事業(台)	0	7	0	0	0
⑧予備機整備率(%)	0	14	0	0	0
端末整備計画 更新計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和 2 年度に一括導入しているため、今回も全児童分を一括で更新する。 ・ 児童数は近年 50 人前後で推移しているが、山村留学を実施しており、全校児童数 60 人を目指している。 ・ 以降 5 年毎の更新を行う 				
使用後端末計画	<p>令和 7 年度更新台数 : 57 台</p> <p>処分方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和 2 年度導入の旧児童用端末について、公民館活動や公共施設内で再利用する ・ 今後については、リース導入とし、リース終了後の端末機は回収を受ける <p>端末のデータ消去について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和 2 年度導入の旧児童用端末については村職員が行う ・ 今後については、リース業者と消去処理込みでの、契約内容とする <p>今後の予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和 8 年 3 月 新規導入端末使用開始 ・ 令和 8 年 4 月 再利用端末の初期化作業実施 ・ 令和 8 年 5 月 再利用端末の利用開始 				
その他					

2.ネットワーク計画

	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度	令和 10 年度
①十分なネットワーク速度が確保できている学校の割合(%)	100	100	100	100	100
②簡易アセスメントの実施計画	なし	なし			
③アセスメントの実施計画					
簡易アセスメントによって課題が明らかとなった場合の対策					
アセスメントによって課題が明らかとなった場合の対策					
アセスメントを実施しない例外的な事情	<ul style="list-style-type: none"> ・児童数 50 人でベストエフォート 100M のサービスを受けている。学校での実測 70～80Mbps であるが、村内唯一のブロードバンド回線である村営の CATV 回線となっているため、村の設備整備に限界がある。 ・令和 7 年度、村 CATV 施設改修工事を行い、インターネット 1G サービスの開始を図る 				

3.校務 DX 計画

		令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
共通項目	FAX・押印の原則廃止に取り組んだ学校の割合	0	100			
	不合理な手入力作業の一掃に取り組んだ学校の割合	0	0	100		
	クラウド環境を活用した校務 DX の徹底に取り組んだ学校の割合	0	0	0	100	
選択項目	7.学校説明会や保護者懇談などにオンライン形式を取り入れている学校の割合	100				
	9.1人1台端末を児童生徒に持ち帰らせ、家庭で利用できるようにしている学校の割合	100				
	18.職員会議等をハイブリッド(対面・オンライン)で実施している学校の割合	0	100			
課題と解決策の具体	教育委員会及び学校が教育 DX を推進する際に取り組む事が望ましい項目を実現するうえで障害となる課題	中学校区(3小学校1中学校)で機種や運用について統一性を図りたいが、ネット環境に差がある。今後運用内容をクラウド中心に移行したいが、不安を感じる				
	教育委員会及び学校が教育 DX を推進する際に取り組む事が望ましい項目を実現するうえで障害となる課題の解決策	3小学校のうち2小学校は、CATV回線のためのエリアのため、大手キャリアによる光回線サービスの進出を望む。				
	校務系ネットワーク・システム等の現状分析や、望ましい校務の在り方に関する検討の計画	校内にICT担当を中心とした、ICT有効利用推進会議を設置し、現状と課題を検討し、改善の必要性を具体的に掲げ、問題解決に取り組む				

4.1 人 1 台端末利活用計画

項 目	内 容
<p>①1 人 1 台端末を始めとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特別な支援を必要とする子供を含め、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化された学びを実現する ・主体的、対話的、深い学びのある授業に改善する ・教科の学びを深め、教科の学びをつなぎ、社会課題の解決に生かしていく ・都市部と地方の子どもたちや教師同志がつながり、学びと学びがつながり、指導と指導がつながる
<p>②GIGA 第 1 期の総括</p>	<p>令和2年のコロナウイルス感染禍のなか、急遽全児童にタブレットを配置し、オンラインによる授業や、担任とのコミュニケーションも可能な機器整備を完了した。以後タブレットやオンラインは特別なモノではなくなったが、その運用について、機器を使いこなし、道具として普段使いがあたりまえな状況にはなっているかという、まだまだ不完全と言わざるを得ない。民間業者の ICT 支援員による指導も日常的に導入している。しかし、指導者の PC スキルに依存する部分が大きく、ドリル形式の教材を授業の一部で使用しているに過ぎない状況である。</p> <p>また、機種選定においても、第一期では学校側の意見を取り入れる時間がなく、子供たちの将来のためにと費用を度外視して、広く一般社会に浸透しているパソコン OS が適切ではないかと判断したが、クラウドによる運用においては、処理速度、セキュリティ等々において必ずしも適切な選択ではないことが判明し、第二期においては軌道修正を図りたい</p>
<p>③1 人 1 台端末の利活用方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者懇談会等学校行事にオンライン形式を積極的に取り入れる ・ 児童が自宅学習で利用するために、端末の持ち帰りをすすめる ・ 職員会議等のオンライン＆現場開催のハイブリット開催について推奨・支援する ・ クラウド有効利用に向けた、職員支援体制を構築する